

福祉用具啓発活動に密着!

「自助具と作業療法について発信(ふくじフエア2023)」



日時 令和5年10月22日(日)
会場 イオンモール高知



福祉用具推進委員会 委員長
二宮 康公 氏
(宿毛市立特別養護老人ホーム千寿園)

士会ブースへ多くの方に来ていただき、自助具や作業療法についての啓発、発信をすることができました。今後も福祉用具についての会員同士のつながりを深め、一般の方への啓発活動を行っていきます。

●士会の啓発内容

参加者の反応や部員の方の感想

委員の方より自助具の概要や展示をしている自助具の目的・用途についての説明があり、来られた方も興味深そうに聞かれていました。また、自助具の体験として、「マジックハンドで床のものを取る」、「自助具のお箸やスプーンでビーズをお皿へ移すなどをされており、体験された方の中には驚かれた反応をされる方もいらっしゃり、お子様はゲーム感覚で楽しました。」
● 取材を通して感じたこと
「自助具と生活」はとてもつながりのある部分であり、一般的に正しい用途を知つていただき、より便利な生活が送れるようになります。
実際に啓発活動を実施した委員の方からは、「来られた方に何に使うものかと質問をされたり、その用途に驚かれるなど、多くの方に興味を持つていただけました」と来られた方々の反応を教えていただきました。



自助具の体験をしてもらいました。

よさこいOT名鑑 ～あなたの作業療法 Vol.2～



牛窓 智文 氏
(介護老人保健施設あいの里)

大坪 趣味を教えてください。

職場の人の誘いでヨガを始めました。ヨガは自分自身の心身の健康やどのような過程を踏むことで上手に行えるなど、哲學的なところも学ぶことができます。



ヨガのポーズ

大坪 施設でのやりがいや良かったことを教えてください。

家族さんの介護に対する不安や、機能向上が目的で入所された利用者さんがいらっしゃり、入所時は車いす自走も困難でしたが、スタッフと協力して関わっていく中で車いす自走ができるようになりました。その他にもできることが増えたことが嬉しかったです。

大坪 今後どのようなOTになっていか教えてください。

利用者一人一人が元気になっていただけるよう、スタッフ皆が同じ方向をみていくように努力していきたいと思います。利用者さん、スタッフのそれぞれの想いを大切にして、一人一人との関係を大事にしていきたいと思います。

取材文責 広報編集部 大坪 尚喜 (朝倉病院)

障害福祉班と広報編集部の合同企画 ～障害福祉の実際とは？～

障害福祉班と障害者支援施設「高知ハビリテーリングセンター」へ取材に伺いました！

障害福祉がどのようなものかご存じですか？県内に施設数が少ないために、会員の皆さまが実際場面を見て・知る機会が少ないとおもいます。

今回、①施設内の視察 ②利用者の方への取材 ③島崎義広氏（生活・訓練部 部長）へお話を伺いました。

まずは、『施設内の視察』と『利用者の方への取材』を紹介いたします(^_^\n

● 観察内容～居室や生活場面の環境、訓練場面などの観察～

どのような設備があり、その中で利用者がどのような生活や訓練をされているのか、よりイメージができる内容になっています。是非ともご覧ください(^_^\n



全文はこちら



●利用者の方への取材～入所までの経緯や現在の状態、これから的生活に向けての取り組み～



「今までできていたことができない。」ではなく、「今の状態でどのような手段でできるようになるか」が大切だと思います。

利用されている方が、どのような心境や想いで、今後の社会復帰に向けて取り組んでいるのかお聞きしました。是非ともご覧ください。



島崎義広 氏（生活・訓練部 部長）と障害福祉部 部長の対談記事は、来年度に紹介します！どうぞ楽しみにお待ちください。

全文はこちら



小児分野で関わる事のやりがいと魅力について

佐々木 愛理 氏 (須崎くろしお病院)



全文はこちら



取材者の思いと目的

青木 Q 実施している評価や、対応課題を教えて下さい。

A

佐々木 氏

様々なスクリーニング検査を実施していますが、特に自宅や学校の様子、生活場面の活動・行動面の評価を大事にしています。会うたびに心身状況の変化が起きているため、その都度、眼球運動や姿勢などを再評価しています。

課題は、「お箸や鉛筆の持ち方」「字が書けない」「授業についていけない」など様々です。

青木 Q 大切にしている視点や工夫を教えてください。

A

佐々木 氏

子どもに「楽しい」「また来たい」と思ってもらえるよう、遊びを通じたプログラムを立案するようにしています。治療の時には、苦手な感覚（訓練）を取り入れる事も多いです。その際には、その日のプログラム内容と一緒に確認し、スマールステップ（目標を細かく分け、簡単な内容から少しづつ達成していく）で訓練を実施して失敗する回数を少なくし、成功体験を多く取り入れるように心掛けて関わっています。“苦手な事の後には、好きな遊び（訓練）がある”など、子どものモチベーションを高めることも大切にしています。結果がうまくいかないこともありますが、その際には過程の行動を褒めるようにしています。

● 佐々木氏より会員へメッセージ

子ども達と一緒に訓練を楽しみながら、成長を感じられる魅力があります。子どもが好きな方、興味がある方がおられましたら、是非とも小児分野への参画をお願いいたします。 子ども発達支援部 メールアドレス specialeducationkochiot@gmail.com



子ども達と夏休みに行った集団活動に関して、皆で新聞作成をしました。